



JASWHS 公益社団法人 日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

平成 29 年 9 月 20 日 第 7 巻 (第 3 号)

発行：東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F

災害支援チーム TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

Mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

もくじ

1. 仮設住宅集約と移転状況報告
2. 石巻周辺の今を写真で報告
3. **トピクス** — 2017 石巻再生 “Reborn” の夏 —
4. **トピクス** — めざせ 女川町復活 —
5. 災害支援チームからのお知らせ
6. 災害支援ニュース発行のお知らせ
7. あとがき

発売のお知らせ

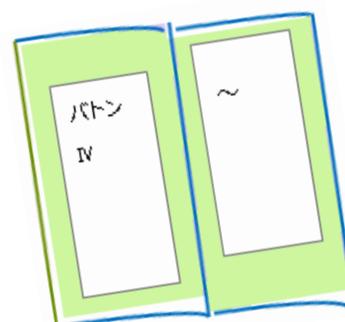
「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援の

バトンⅣ」

が発売されました！！

詳細は、協会ホームページ

及び 【3. 書籍販売】をご覧ください。



石巻現地職員を募集しています！！

詳細は協会ホームページ「石巻・現地職員募集中」にてご覧ください。

《 平成 29 年 8 月 31 日現在 支援活動地域別 仮設住宅報告 》

(宮城県保健福祉部震災援護室 入居状況抜粋)

※ 東松島市と女川町の入居状況を掲載

⇒⇒⇒ 東松島市と女川町に避難している石巻市民への支援実施中 ※

石巻市応急仮設住宅現況報告

応急仮設住宅（プレハブ住宅）入居状況 (集約化進行中)

入居戸数 1,161 戸
入居人数 3,276 人

応急仮設住宅（民間賃貸借上住宅）入居状況

入居戸数 1,207 戸
入居人数 2,767 人

東松島市応急仮設住宅現況報告

応急仮設住宅（民間賃貸借上住宅）入居状況

入居戸数 121 戸
入居人数 265 人

女川町応急仮設住宅現況報告

応急仮設住宅（民間賃貸借上住宅）入居状況

入居戸数 10 戸
入居人数 32 人

1. 仮設住宅集約と移転状況報告

災害支援チーム

石巻現地担当 金崎 慶大



現在、石巻では仮設閉鎖（応急仮設住宅の供与期間は、平成 30 年度中で終了予定）に向けての動きの一つとして仮設集約移転が行われています。仮設集約移転とは、市内に点々とあったプレハブ仮設を入居者数・入居率を基に数か所の集約拠点団地へまとめるといった動きです。（※詳しくは石巻市ホームページの石巻市被災者自立再建促進プログラムをご覧ください。）

私たち現地職員も集約移転に伴い、移転の際の引っ越しの段取りや引っ越しに伴う支援を行っています。一言で集約移転といっても、高齢者や障害を持つ家族がいる世帯にとっては生活の場所を変えるということは簡単なことではありません。

このような状況の中で担当しているケースを少し紹介します。



ケース①： 引っ越しが重なることでの負担が大きい世帯

高齢の独居世帯でこの冬には復興住宅の入居が決まっている、が集約移転を余儀なくされ短期間の内に数回の引っ越しが必要となっていました。軽度の認知症もあるため環境の変化で影響することも懸念されたため、担当ケアマネジャーと密な連携を図りました。

ケース②： 集約移転に伴う関りの中で 具体的な再建先が決定していないことが判明した世帯

自宅を新しく建て直すことを望んでいたが、震災後の生活や取り巻く環境が変化することで（家族や経済状況等の事情により）自宅の再建が滞っており、移転後も相談を継続することになりました。



仮設の供与期限延長は今後ないと決定した中で、決断するタイミングと再建に向けて動き出す世帯もあれば再建のイメージができず動けていない世帯、今の生活を変えることに抵抗を示す世帯など様々な反応があります。

この限られた期間をどう過ごすのか、考えるのか、短いと感じる人もいればまだ有余があると考える人もいると思います。このような状況の中で私たちもできることは何かと考えることも少なくありません。医療ソーシャルワーカーとして退院後の生活や場所をイメージできない、決定出来ない方達に関わってきた経験と重なる部分は多いと感じます。

“寄り添う” “自己決定” 集約移転という大きな節目を機に改めて丁寧で根気のいる支援が求められているように思います。



2. 石巻周辺の今を写真で報告

災害支援チーム

石巻現地担当 菊田 駿



『集約移転前の仮設内』

約6年間過ごした仮設住宅。再建先に向け、期待と不安を抱え退去していきます。



『新しい復興住宅』

H29.11月に入居が予定されている広瀬復興公営住宅の写真です。

関わっているケースの方も何名か入居が決まっている住宅です。

今月の23日に入居者に向けての現地見学会が予定されています



『駅周辺整備事業の模型』

石巻市役所 2 階の市民の交友スペースに置かれている模型です。

数年後にこのようになると思うと楽しみです。

3. トピックス — 2017 石巻再生 “Reborn” の夏 —

災害支援チーム

石巻現地責任者 福井 康江

石巻市の牡鹿半島を主な舞台とした総合祭「リボンアート・フェスティバル 2017」が、7月22日から51日間開催されました。現代アートと、食、音楽で東日本大震災からの再生を願い開催されたものです。国内外の現代アーティストの方々の作品が地元の皆さんの協力のもと、展示されています。

配布されたパンフレットでは、「今、生まれ変わろうとしている東北だからこそ、他では出会うことのない価値観や人に出会うことができる。今まで出会うことのなかった自分にさえ、出会うことができるかもしれません。『Reborn - Art』とは、東北の再生を指す



だけでなく、参加する人それぞれの『Reborn』を願うお祭りです。」と伝えていきます。

私もボランティア（こじか隊）に登録させていただき、2日間ではありましたが、お手伝いをすることができました。石巻にいても、なかなか半島部には行く機会が無かったので、ボランティアをする中で、牡鹿の素晴らしい景色に魅了された経験ともなり、また、



一つこの地が好きになりました。

また、訪れる人はもちろんですが、ボランティアの皆さんも全国各地から参加されており、丁度夏休みを利用して長期でボランティアに携わっている学生さんも大勢いらっしゃいました。高齢化率が上がってきている石巻ではありますが、この時期は平均年齢も大分下がったのではないかと感じるくらいでした。

ボランティアの合間、主催の中心となったアーティストの方とお話しをする機会があったのですが、「今後おおよそ 10 年は継続して開催する予定。その間少しずつこのイベントを地元のアーティストの方のものにして行って欲しいと思っている。根付いて行って欲しい。それが再生につながると思っている。」と話されていました。



微力ではありますが、私もこの地の「Reborn」にこれから少しでも役に立つことができれば、と改めて感じた日となりました。

ここに、私の撮ったいくつかの作品の写真も載せました。現代アートなので、自由に解釈し、観て下さい！ 作品について気になる方は、どうか関連HP等をご確認ください。



4. トピクス — めざせ 女川町復活 —

災害支援チーム

石巻現地担当 金崎 慶大

先日、隣町の女川町に行く機会がありました。石巻市事業の支援対象地域（みなし仮設住宅）として女川町も含まれており、時折訪れます。石巻市同様被害の大きかった地域である為、被災の傷跡が所々に残っております。その反面、女川駅の再建や観光地としての開発（シーパルピア女川・地元市場ハマテラスという商業施設がおすすめ）も進んでおり町の再建も進んでいます。女川町は、行政まかせにしないで、自分たちで知恵を出し合い、「個人の考えや利益」は二の次に民間が団結し、上の世代が若者たちを支え、行政に提案し働きかけ協働したと聞くことができました。震災で多くの喪失を経験したことは間違いありませんが、今の女川町のように活気のある姿を見ると地域力の強さを感じずにはられません。海を見ながら食べる海鮮丼は格別です。皆さんもぜひ！



女川の町から見た風景と海鮮丼！



5. 災害支援チームからのお知らせ



【1. 当ニュース発行について】

5月23日の災害支援チーム会議において発行サイクルについて検討

発行サイクル： 2～3ヶ月に1回

前回： 第1、第2の合併号として発行

今回からの号： 第3号からを継続

【2. 書籍販売】

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』、
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』、
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ』
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅣ』の
販売を行っています！



発災から2011年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011年10月から2012年12月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地SWとの協働の記録を『バトンⅡ』に、2013年1月から2014年3月までの災害支援チーム、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、虐待防止センターでの支援・石巻市社会福祉協議会での支援、現地SWとの協働の記録を『バトンⅢ』にまとめました。

そして新たに、この5月下旬に『バトンⅣ』を発行いたしました。

2014年4月から2016年3月までの災害支援チーム、石巻市での復興公営住宅への入居支援・

仮設住宅被災者自立生活支援・グループワーク支援・市民活動支援の記録です。

尚、売り上げの全額を皆様からの寄付として、本活動の資金にあてさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。

(注文用紙はホームページからダウンロードできます)

ボタン I :URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45

ボタン II :URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=50

ボタン III:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=54

ボタン IV:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=59

【3. facebook】



facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いたします。

URL

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

【4.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の原さんが VTR にまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で



検索すると見つかります。

URL

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>

6. 災害支援ニュース発行のお知らせ

次回発行予定 12月中旬

7. あとがき

災害支援チーム事務局から

編集担当 富永

日本国内だけでなく、世界中で自然災害により多くの方々が不自由な生活を余儀なくされています。石巻の活動は、避難所の支援から仮設団地等の支援、そして復興期において私たちの経験を役立てられることはないか?と思いながらニュースを見えています。

仮設団地の集約は、次のステップへいくことの大変さに想いを馳せます。現地の皆さんの支援を応援しています。



東日本大震災 MSW 災害支援ニュース
平成 29 年 9 月 20 日 第 7 巻 (第 3 号)
作成 日本医療社会福祉協会
災害支援チーム事務局